

整形外科

1 構 成 員

	平成 13 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
助教授	1 人	
講師（うち病院籍）	2 人	(2 人)
助手（うち病院籍）	6 人	(3 人)
医員	4 人	
研修医	4 人	
大学院学生（うち他講座から）	4 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技官	1 人	
その他（技術補佐員等）	5 人	
合計	28 人	

2 教官の異動状況

- 長野 昭（教授）（期間中現職）
- 串田 一博（助教授）（期間中現職）
- 宮本 繁仁（講師）（期間中現職）
- 村田 英之（講師）（期間中現職）
- 山崎 薫（助手）（期間中現職）
- 高橋 正哲（助手）（期間中現職）
- 影山 康徳（助手）（～H12. 4. 1 浜松医科大学医員，H12. 6. 1 以降現職）
- 佐野 倫生（助手）（期間中現職）
- 星野 裕信（助手）（期間中現職）
- 荻原 弘晃（助手）（期間中現職）

3 研究業績

	平成 12 年度	
(1) 原著論文数 (うち邦文のもの)	15 編	(9 編)
そのインパクトファクターの合計	4.131	
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	1 編	
(3) 総説数 (うち邦文のもの)	18 編	(18 編)
そのインパクトファクターの合計	0	
(4) 著書数 (うち邦文のもの)	9 編	(9 編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	7 編	(7 編)
(6) 国際学会発表数	9 編	

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Mochizuki K, Inoue T (2000) Effect of salmon calcitonin on experimental osteoporosis induced by ovariectomy and low-calcium diet in the rat. J Bone Miner Metab 18:194-207.
2. Ohishi T, Kushida K, Yamazaki K, Naitoh K, Nagano A (2000) Ultrasound measurement using CUBA clinical system can discriminate between women with and without vertebral fractures. J Clinical Densitometry 3:227-231.
3. Zhang H, Kitazawa A, Kushida K, Nagano A (2000) Age and menopause-related changes in phalangeal bone density of Japanese women measured by a digital image processing method. J Orthop Sci 5 :431-435.
4. Kitazawa A, Kushida K, Yamazaki K, Inoue T(2001) Prevalence of vertebral fractures in a population-based sample in Japan. J Bone Miner Metab 19:115-118.
5. Miyamoto S, Kageyama Y, Ozeki T, Suzuki M, Ichikawa T, Inoue T (2001) Bone mineral density after total joint arthroplasty of lower extremities in rheumatoid arthritis patients. Arch Orthop Trauma Surg 121:127-130.
6. Takahashi M, Naitou K, Ohishi T, Kushida K, Miura M (2001) Effect of vitamin K and/or D on undercarboxylated and intact osteocalcin in osteoporotic patients with vertebral or hip fractures. Clinical Endocrinology 54: 219-224.
7. 長谷川晃三, 金 洪海, 石原智覚, 長谷川友亮, 三浦智彦, 長野 昭 (2000) スノーボードによる外傷例の検討. 整形外科 51 : 475-479.
8. 星野裕信, 宮本繁仁, 鈴木基裕, 長野 昭 (2000) 腸骨採骨部に対するリン酸カルシウム骨ペースト CPC-95 の使用経験. 中部整災誌 43 : 1459-1460.
9. 石原智覚, 金 洪海, 鈴木基裕, 長谷川晃三, 豊山起光 (2000) 難治性骨折に対する低出力超音波の使用経験. 藤枝市立総合病院学術誌 6 : 13-15.
10. 影山康徳, 宮本繁仁, 小関孝夫, 日吉 充, 鈴木基裕, 三浦智彦, 長野 昭 (2000) 慢性関節リウマチにおける bipolar 型人工骨頭置換術の術後成績について. 臨整外 35 : 1027-1029.
11. 荻原弘晃, 長野 昭, 高橋正哲, 大村威夫, 西村行秀 (2000) 腕神経叢損傷を疑わせた心因性上肢麻痺症例の検討. 日手会誌 17 : 311-314.

12. 高橋正哲, 内藤健一, 鈴木基裕, 宮本繁仁, 串田一博, 長野 昭 (2000) 関節マーカー・血中コンドレックス (Chondrex/YKL-40) の変形性膝関節症, 慢性関節リウマチにおける検討. 整形外科 51 : 720-722.
13. 山梨晃裕, 山崎 薫, 長野 昭 (2000) 大腿骨頸部骨折患者の退院時の身体能力の検討. 中部整災誌 43 : 1147-1148.
14. 山崎 薫, 坂田 悟, 渥美公勢, 西村行秀, 串田一博, 長野 昭 (2000) 骨粗鬆症患者の QOL 評価法に関する検討. Osteoporosis Japan 8 : 640-648.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. 古谷隆一, 佐野晃司, 深澤洋敬, 高橋 聡, 高橋正哲, 串田一博, 菱田 明 (2000) 長期透析患者に対するポリスルフォン膜の効果 中等量置換 HDF との比較 . ハイパフォーマンスメンブレン 2000 腎と透析別冊 2000 : 81-83.

D. 筆頭著者, 共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが, 当該教室に所属する者が含まれるもの

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 土川拓也, 村田英之, 町田 晃, 山梨晃裕, 三浦智彦, 長野 昭 (2001) 特発性側弯症に対する装具療法の問題点—アンケート調査による検討—. 東海小児整形外科 3 : 67.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

D. 筆頭著者, 共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが, 当該教室に所属する者が含まれるもの

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 青島宏枝, 串田一博 (2000) 骨粗鬆症へのイプリフラボンとビタミン k₂ の使用法. 臨床成人病 30 : 931-935.
2. 串田一博 (2000) 骨粗鬆症による腰背痛. 骨・関節・靭帯 13 : 387-392.
3. 串田一博 (2000) 骨粗鬆症の診断基準. 骨・関節・靭帯 13 : 615-618.

4. 串田一博 (2000) 骨量と骨折. 骨粗鬆症財団会報 26 : 4-5.
5. 村田英之 (2000) 女性内科シリーズ 腰痛. 産科と婦人科 67 : 1060-1066.
6. 村田英之 (2000) 知っておきたいしびれの対処法. 暮らしと健康 9 : 17-19.
7. 長野 昭 (2000) 副神経麻痺の原因疾患. Clinical Neuroscience 18 : 684-685.
8. 山崎 薫 (2000) 易転倒者を生理検査で見分ける-重心動揺計による高齢者の易転倒性定量評価の試み -Clinical Calcium 10 : 421-423.
9. 山崎 薫 (2000) 骨粗鬆症の治療と QOL. Clinical Calcium 10 : 1642-1646.
10. 山崎 薫 (2000) 2 .MD, QUS の精度管理. Osteoporosis Japan 8 : 595-599.
11. 山崎 薫, 井上哲郎 (2000) 骨折と高齢者の自立障害. Geriat. Med. (老年医学) 38 : 1620-1624.
12. 山崎 薫, 井上哲郎 (2000) 転倒と骨折の整形外科的治療. 薬の知識 51 : 276-278.
13. 串田一博 (2001) 骨量測定の最近の進歩 臨床に役立つ骨量測定 ③治療決定・治療効果判定のための骨量測定とその考え方. THE BONE 15 : 45-48.
14. 串田一博 (2001) 骨粗鬆症—最近の話題—. MEDICAMENT NEWS 1678 : 30-31.
15. 串田一博 (2001) QUS の保険適用と適正使用—骨粗鬆症の診断と治療への使用—. Osteoporosis Japan 9 : 57.
16. 坂田 悟 (2001) 骨量測定の最近の進歩・ QUS. THE BONE 15 : 25-27.
17. 山崎 薫 (2001) 超音波による骨評価とその意義. Clinical Calcium 11 : 346-348.
18. 山崎 薫 (2001) 3.塩酸ラロキシフェン. 医薬ジャーナル 37 : 961-964.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 串田一博 (2000) Q41 WHO による骨粗鬆症の診断基準について説明して下さい. 森井浩世 (編) 全面改訂骨粗鬆症 Q&A 医薬ジャーナル社 : 125-126.
2. 串田一博 (2000) Q60 カルシウム剤による薬剤治療について教えて下さい. 森井浩世 (編) 全面改訂骨粗鬆症 Q&A 医薬ジャーナル社 : 176-177.
3. 串田一博 (2000) Q69 米国 FDA における骨粗鬆症治療薬の臨床評価ガイドラインについて解説して下さい. 森井浩世 (編) 全面改訂骨粗鬆症 Q&A 医薬ジャーナル社 : 198-199.
4. 長野 昭 (2000) 基礎解剖学. 長野 昭 (編) 整形外科手術のための解剖学上肢 メジカルビュー社 : 2-17.
5. 長野 昭 (2000) 後頸三角. 長野 昭 (編) 整形外科手術のための解剖学上肢 メジカルビ

ュー社：34-47.

6. 長野 昭 (2000) 末梢神経損傷 A 上肢. 加倉井周一, 初山泰弘, 渡辺英夫 (編) 装具治療マニュアル 疾患別・症状別適応 医歯薬出版：143-158.
7. 長野 昭 (2000) 骨折／脱臼, 捻挫／野球肩, 野球肘, テニス肘／五十肩, 頸椎症／骨粗鬆症／椎間板ヘルニア, 腰痛症／変形性関節症／慢性関節リウマチ, 腱鞘炎／骨腫瘍／肋間神経痛, 坐骨神経痛／山口和克 (監) 新版病気の地図帳 講談社：110-129.
8. 長野 昭 (2000) 神経損傷 正中・尺骨・橈骨神経, 総腓骨神経. 石井清一, 菊地臣一, 越智光夫 (編) 経験すべき外傷・疾患 88 メジカルビュー社：277-280.
9. 山崎 薫 (2000) 第 4 章骨粗鬆症検診 3 . 骨量測定とその評価. 骨粗鬆症財団 (監) 老人保健法による骨粗鬆症予防マニュアル第 2 版 日本医事新報社：67-80.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

D. 筆頭著者, 共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが, 当該教室に所属する者が含まれるもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 土井 俊, 紫藤徹郎, 坂田 悟, 長野 昭 (2000) 断裂を生じたアキレス腱骨化の 1 例. 臨整外 35 (10) : 1167-1169.
2. 長谷川晃三, 金 洪海, 石原智覚, 大和 雄, 長野 昭 (2000) スノーボード中に生じた上腕骨小結節単独骨折の 1 例. 臨床スポーツ医学 17 (6) : 745-748.
3. 長谷川晃三, 金 洪海, 長谷川友亮, 松本 博, 長野 昭 (2000) 距骨下脱臼の 5 例. 関節外科 19 (10) : 1308-1312.
4. 小出陽一 (2000) 骨・関節結核の 3 例. 磐田市立病院誌 2 (1) : 11-16.
5. 岡田雅仁, 串田一博, 村田英之, 大村亮宏, 神谷光太郎, 長野 昭, 三浦克敏 (2000) 多発性骨巨細胞腫の一例. 東海骨軟部腫瘍 11 : 28-30.
6. 阿部雅志, 高橋正哲, 川名幸一, 望月邦憲, 小林 剛, 長野 昭 (2001) 距骨骨折後に生じた変形性足関節症に関節鏡視下手術を行った 1 例. 整形外科 52 : 204-205.
7. 石原智覚, 金 洪海, 長野 昭 (2001) 頸椎化膿性脊椎炎に腰部硬膜外膿瘍および傍脊柱筋内膿瘍を併発した 1 例. 整形外科 52 : 163-166.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

(6) 国際学会発表

1. Miyamoto S, Ozeki T, Kageyama Y, Suzuki M, Ichikawa T, Nagano A (2000) Treatment of Corticosteroid Induced Osteoporosis in Rheumatoid Arthritis Patients. 9th Asian Pacific League of Associations for Rheumatology Congress, May, Beijing.
2. Suzuki M, Miyamoto S, Ozeki T, Kageyama Y, Atsumi K, Miura T, Ichikawa T, Nagano A (2000) The Clinical Evaluation of the Forefoot Resection Arthroplasty in Patients with Rheumatoid Arthritis. 9th Asian Pacific League of Associations for Rheumatology Congress, May, Beijing.
3. Ichikawa T, Miyamoto S, Ozeki T, Kageyama Y, Suzuki M, Murata T, Nagano A (2000) Clinical Significance of Anti-agalactosy IgG Antibodies in Synovial Fluid with Rheumatoid Arthritis Patients. 9th Asian Pacific League of Associations for Rheumatology Congress, May, Beijing.
4. Nishimura Y, Kushida K, Yamazaki K, Fujiwara T, Yamato Y, Nagano A (2000) Evaluation of calcaneal bone mineral density with fan beam DEXA. World congress on Osteoporosis, June, Chicago.
5. Sakata S, Barkmann R, Lochmüller E.M, Gliuer C.-C(2000) Ultrasound velocity and amplitude in the metaphysis of finger phalanges depends on cortical porosity as well as cortical density. World congress on Osteoporosis, June, Chicago.
6. Atsumi K, Hoshino H, Kushida K(2000) Evaluation of Vertebral Deformity in Hemodialysis Patients. 22th Annual meeting of the American Society for Bone and Mineral Research, September, Toronto.
7. Yamato Y, Kushida K, Atsumi K, Nishimura Y (2000) Assessment of Osteoporotic Fracture (Spine Fracture) Using New Developed QUS. 22th Annual meeting of the American Society for Bone and Mineral Research, September, Toronto.
8. Tajiri T, Nakamura T, Okinaga S, Mikami Y, Yamamoto S, Kawano K, Ikata T, Ikeda T, Nagano A (2000) First and/or C7 transverse process fracture indicates root lesions in brachial plexus injury. BOA -JOA Combined Congress, October, London.
9. Mikami Y, Nagano A, Ochiai N, Tajiri T(2000) Results of nerve grafting for combined injuries of the axillary and suprascapular nerves. BOA -JOA Combined Congress, October, London.

4 特許等の出願状況

	平成 12 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成 12 年度
(1) 文部省科学研究費	1 件 (80 万円)
(2) 厚生省科学研究費	1 件 (260 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件 (万円)
(4) 財団助成金	0 件 (万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件 (万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	27 件 (1,950 万円)

(1) 文部省科学研究費

高橋正哲（代表者）基盤研究（C）(2)「HPLC 法によるヒト総合組織中コラーゲンとエラスチン架橋物質の同時測定法の確立 80 万円（新規）

(2) 厚生省科学研究費

山崎 薫（分担者）長寿科学総合研究事業 「プロテクターによる高齢者の転倒障害予防」 260 万円（継続） 代表者 国立療養所中部病院医長 原田 敦

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	平成 12 年度
(1) 特別講演・招待講演回数	3 件
(2) 国際・国内シンポジウム発表数	3 件
(3) 学会座長回数	10 件
(4) 学会開催回数	2 件
(5) 学会役員等回数	9 件

(1) 学会における特別講演・招待講演

1. 長野 昭 (2000) 末梢神経のねじれ. 第 27 回日本マイクロサージャリー学会, 8 月, 札幌市
2. 長野 昭 (2000) 絞扼神経障害の診断と治療 特に最近の話題 . 日本手の外科学会第 6 回秋季教育研修会, 9 月, 広島市
3. Yamazaki K (2000) Clinical Application of QUS in Osteoporosis-Screening and Patient Classification Considerations. The 2000 Annual Meeting of The Chinese Taipei Society of Ultrasound in Medicine, October , Taipei

(2) 国際・国内シンポジウム発表

1. 長野 昭 (2000) 肋間神経移行術による腕神経叢損傷の治療. 第 11 回末梢神経研究会 2000 年 8 月, 仙台市
2. 串田一博 (2000) 骨代謝マーカーと骨折リスク (骨折リスクからみたカットオフ値の提案) 骨粗鬆症診療における骨代謝マーカーの適正使用. 第 2 回日本骨粗鬆症学会 2000 年 10 月, 秋田
3. 山崎 薫, 串田一博, 坂田 悟, 長野 昭 (2000) 踵骨超音波測定法における測定値の互換性に関する検討 骨塩量測定機器の互換性. 第 2 回日本骨粗鬆症学会 2000 年 10 月, 秋田

(3) 座長をした学会名

- 長野 昭 日本理学診療医学会第 3 回教育研修講演会 2001 年 2 月, 浜松
長野 昭 第 73 回日本整形外科学会 2000 年 4 月, 神戸
長野 昭 第 43 回日本手の外科学会 2000 年 5 月, 京都
長野 昭 第 94 回中部日本整形外科災害外科学会 2000 年 6 月, 名古屋
長野 昭 第 95 回中部日本整形外科災害外科学会 2000 年 10 月, 高松
串田一博 第 73 回日本整形外科学会 2000 年 4 月, 神戸
串田一博 第 94 回中部日本整形外科災害外科学会 2000 年 6 月, 名古屋
串田一博 第 18 回日本骨代謝学会 2000 年 7 月, 広島
串田一博 第 95 回中部日本整形外科災害外科学会 2000 年 10 月, 高松
串田一博 第 2 回日本骨粗鬆症学会 2000 年 10 月, 秋田

(4) 主催する学会名

- 第 13 回日本肘関節研究会 2001 年 2 月, 浜松
第 16 回静岡手の外科マイクロサージャリー研究会 2001 年 3 月, 浜松

(5) 役職についている学会名とその役割

- 長野 昭 日本整形外科学会 代議員
長野 昭 日本手の外科学会 理事
長野 昭 日本肘関節研究会 理事
長野 昭 日本末梢神経学会 理事
長野 昭 中部日本整形外科災害外科学会 評議員
串田一博 日本骨代謝学会 評議員
串田一博 日本骨形態計測学会 評議員
串田一博 中部日本整形外科災害外科学会 評議員
串田一博 日本骨粗鬆症学会 監事

8 学術雑誌の編集への貢献

	平成 12 年度
学術雑誌編集数	0 件

9 共同研究の実施状況

	平成 12 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	0 件

10 産学共同研究

	平成 12 年度
産学共同研究	0 件

11 受 賞 (学会賞等)

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

15 新聞, 雑誌等による報道